



図1 韓国の年度別建築物着工状況(出典:韓国・国土建設部)

はじめに
岐阜県産材の利用拡大の一つとして、海外ニーズに対応した木材の輸出促進があります。岐阜県はアジア圏(中国・台湾・

韓国など)への木材輸出促進に対する施策を講じています。そこで、筆者の建築構造からの韓国へのアプローチについてお話しします。

韓国の住宅は集合住宅が多く、RC造やS造が大半を占め、木造の割合は数%です(図1)。木造建築の着工戸数は2006年頃より徐々に増加していく、近年では1万戸を越えています。その多くは榀組壁工法(2×4工法)です。韓屋の建設は極僅かで非常に高価で憧れがあります。「木が見える」木造住宅を取得したい志向があるため、富裕層を中心に木造軸組構法住宅も徐々に増えています。

近年の韓国で発生した地震

韓国気象庁によると、朝鮮半島と周辺の沖合で発生したM2以上の地震は、2016年に252回、2017年に223回、2018年に115回でした。これは韓国観測史上最多で、今後大きめの規模の地震が生じる可能性を韓国気象庁は排除していません。

近年地震規模としては最大級の地震として、2016年9月に慶州(キョンジュ)

韓国の木造建築をとりまく現状

これらの震災は韓国建築施策に大きな変化をもたらし、2017年12月、住宅等の低層建築物(2階建以下木造住宅)においても「構造安全及び耐震設計確認書」の提出が必要となりました。徐々に増加してきた木造住宅の着工戸数が2018年に減少したのは、この構造に関する申請書提出の義務の影響であると考えられます。

2017年9月に日本の企業が物流センターとプレカット工場を釜山に、2018年秋に韓国の企業体がプレカット施設が整備され、韓国では日本式軸組構法が普及する素地が整い始めてい

ます。月城原子力発電所が稼働を停止しました。浦項地震で2千棟規模で住宅の被害、5百棟規模で公共施設の被害が生じました。浦項地震で2千棟規模で住宅の被害、5百棟規模で公共施設の被害が生じました。



写真1 県産材利用住宅

「韓国への岐阜県産材の展開 ～木造軸組構法の構造からのアプローチ～」

岐阜県立森林文化アカデミー 教授・小原 勝彦

る状況です。

まずは「構造安全及び耐震設計確認書」を作成し、2019年1月に韓国で研修を実施しました。その後、建築確認がスムーズになり、岐阜県産材利用も進み始めています(写真1)。

岐阜県産材の展開へ向けて

森林文化アカデミーの役割は、実務者への技術支援と、韓国のビジネスパートナーの発掘・育成になります。

おわりに

2017年9月に日本の企業が物流センターとプレカット工場を釜山に、2018年秋に韓国の企業体がプレカット施設が整備され、韓国では日本式軸組構法が普及する素地が整い始めてい